

テレビのバリアフリー②（“ふりがな”なしのサマリー）

知的障害者が感じている テレビのバリア 「ニュースがわからない！」

「テレビのバリアフリー」企画の2回目！知的障害者の「ニュースがわからない」という声から、その解決方法をかんがえる！スタジオに来てくれた3人に話を聞きくと、「ことばがむずかしい」「早口で聞きとれない」「文字がよめない」など、それぞれ、ニュースを見るときにこまっていることがあるようだ。中には「政治のニュースがわからないから、選挙のときにだれをえらんでいいかわからない」という悩みをもつ人も。

「国民みんながしるべきことが十分に伝わっていないとしたら、これは問題だ！」と玉木さんはうったえた。

知的障害者にも わかりやすいニュースって？

わかりやすいニュースにするには、どうすればいい？まずは、ある研究についてしらべた。研究者や支援団体のメンバーが、これまで紙や本などでわかりやすい情報を伝えてきた経験をもとに、テレビのニュースを知的障害者にもわかるように作りかえてみたそうだ。

おもなポイントは、

- ①漢字にふりがなをつけ、ことばをくぎって読みやすくした字幕をつける。
- ②わかりにくいことばや表現を説明するために、ナレーションを新たに入れる。（もとの映像に入りきらなかったら、映像をとめて説明をつける。）もとのニュースの“わかりづらさ”はなくなった。しかし、すべてをわかりやすく説明したことで、時間は3分のびていた。

かぎられた放送時間の中で、わかりやすく伝えるには？さらに、「知的障害者にわかりやすい伝えかた」の研究会をたずねてみた。中心メンバーは、新聞記者、研究者、そして知的障害者のある人など。知的障害者むけの新聞をつくっていたこともある。すべての内容をくわしく説明するのではなく、「大切な情報にしばりこんで、それをていねいに説明することが必要だ」とおしえてくれた。

伊藤アナが チャレンジ！知的障害者にも伝わらるニュース

おそわったポイントをふまえて、伊藤アナウンサーが「知的障害のある人にもわかりやすいニュース」にチャレンジ！よくあるニュースとおなじ、1分30秒というかぎられた時間で、「障害者の法定雇用率が引き上げられる」というニュースを解説する。ことばはカンタンに、こみいった数字の表現はつかわないなど、工夫をしてみたが…

「『割合』って？」「2.2人ってどういうこと？」など、スタジオの知的障害者からは次々と疑問が！『民間(みんかん)』ってなに？』という質問にこたえたときには、「ふだん『だれでもわかるだろう』とおもって使っていることばについて、いざ説明しろといわれると、すごくむずかしい」と、苦戦した伊藤アナであった。

ゲストの鈴木奈々さんも、日頃からニュースがわかりにくいと感じていたひとり。「わかりやすくニュースを伝えることは、障害者だけでなく、みんなのためになる！」と発見をあつく語った。さまざまな人たちが見ている「テレビ」。これからもバリバラは、「テレビのバリアフリー」にとりくんでいきます！

玉木幸則のコレだけ言わせて！

「“わかる”は、ことばの意味の話だけじゃない」

収録後にもみんなと話してたんですけど、ほんとにニュースを全部わかってる？っていう話やと思う。

「わかる・わからない」は、ことばの意味の話だけじゃないやん？障害者雇用率ということばを説明されて理解できても、なぜ障害者雇用率というものがあるのか、まではたどりつけない人もいる。障害があると、もっとわからないわけで。「ニュースがどういうことを言っているのか」がわかるようにするには、どうしたらいいのか。そこはまだまだほり下げられると思う。それと、障害があるからわからないのか、世の中がわかりづらいのか、わかりづらい伝え方をしているのか、なにをもってわかるというのか。そこまで考えないといけない。